

K. E.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校の時に出会った先生がよく海外へ仕事や旅行に行く方で、その先生の話を知っているうちに私自身も海外の生活を自分の目で見てみたいと考え留学を決意しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

勉強は主に文法に力を入れていました。中高で学んだ範囲を始めから解きなおしたりしていました。準備期間で一番大変だったのはビザ申請の web からの個人情報記入でした。家族に協力してもらいながらなんとかできました。

③ 現地到着後

私はたまたま同じ日に出国する友達がいたので入国や現地スタッフを探すのに苦労はしませんでした。空港に着くとホストファミリーが待っていたのでホストファミリーに家まで連れていってもらいました。時差のことを考えオリエンテーションが始まる 1 週間ほど前に現地に着くようにしました。オリエンテーションまで期間があったので友達と学校が始まる前に学校に行ったりしました。

④ 語学研修機関

語学学校はとても綺麗で現地スタッフの方々もとても親切でした。授業は週 4 日(月～木)で Grammar, Reading, Writing, Speaking/Listening の 4 つの授業を受けていました。定期試験は 2 回あり Midterm, Final と分かれていました。

⑤ 課外活動

特にしていませんでした。

⑥ 現地での住まい

私はホストファミリーを 1 度変更しました。正直、はじめのホストファミリーには良い印象を持っていません。はじめのホストファミリーの家は田舎で車がなければどこにも行けず、家に Wi-Fi がなく、家も汚く非常に不便でした。次のホストファミリーはとても親切ないい人で家から学校がとても近く、Wi-Fi も家にあり、日本と同じで土足厳禁な家でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

Winter Vacation でカリフォルニアのディズニーを予定したのですが、旅行先で食中毒(はじめのホストマザーの手料理を食べて)になりとても大変でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

リンコンシティという海岸に近い小さい街に行った時に見た海が一番印象に残っています。雨季の時期で晴れていないと思っていたのですが、晴天で気温も温かく海岸を歩いても寒くない気温でとても楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

1 月末にルームメイトが来たのですが、その子の生活感と全く合わず元ホストファミリーに相談したのですが、結局元ホストファミリーはルームメイトを信じてしまい私がステイ先を変更することになりとてもストレスを感じ、その後腹痛、腰痛、吐き気が 3 週間ほど続き帰国を早めたことが 1 番辛いことでした。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

韓国、サウジアラビアの留学生の買い物の量に驚きました。

III. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

携帯、パソコン(Writing の授業でエッセイを必ず書くので)、USB(プレゼン時に使う)、化粧水、生理用品、飲み慣れた薬。基本のものは現地でも買うことができます。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前はエッセイを書くとき何を書けばいいのか分からなかったのですが、Writing の授業で 2 日に 1 回はエッセイを書いていたので、エッセイを書く抵抗がなくなりました。Reading では長文を読むことに抵抗を感じていましたが、Winter term でレベルが 4 になり長文、TOEFL の問題を読む機会が増え長文を読む抵抗もなくなりました。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

留学は全ていいことが起こるわけではありません。留学はほかの誰でもなく自分自身の留学なので困ったことがあればすぐに周りの人に頼るべきと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだ明白な将来像を想像していませんが、この留学の経験を何らかの形で生かしたいです。



ハロウィーンパーティーの時に撮った写真です



アクティビティのシアトル旅行の時に撮ったガムウォールです

H. N.（社会システム学科・2 年次生）

I 留学レポート

① 留学を目指した理由

1 回生が終わった春休み何か新しいことに挑戦したいと思いました。このまま日本でバイトやサークルをするだけではせっかくの学生生活何か物足りない気がしていました。昔から洋楽や洋画が好きで海外には興味があり、国際交流センターに相談に行ったら試してみなさいと背中を押されて応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

現代社会学部で CASE にも入っていなかったため英語に触れる時間な少なかったので増やし、単語をとりあえず覚えました。電車内でリスニングをするなどできるだけ英語に慣れおくようにしました。またビザ申請には苦労しました。せっかく試験に合格してもビザが手にはいらないと留学できないので間に合うかととても心配でした。たくさん質問を答えなくてはならないし、面接もあるし、すぐには送ってもらえないし、早めから準備をはじめることが大切だと思いました

③ 現地到着後

私は空港に着くと PIA のスタッフの方とマザーが迎えに来てくれていました。はじめて会うのでとても緊張していましたが PIA の方が少し日本語は話して和ましてくれたのを覚えています。PIA オリエンテーションはキャンパスツアーやクラス分けテストなどやることがたくさんありなかなかハードでした。

④ 語学研修機関

★施設・環境・スタッフ

PIA の方は本当に優しくとてもお世話になりました。Conversion group という放課後に PIA の方と 5 人くらいの生徒でいろいろ話すイベントに参加していたのですが、土日にそのグループで遊びに行ったり車でしか行けないところに連れて行ってくれたり、とても楽しかったです。日本人の方もいらしたのでいろいろ相談に乗ってもらえたりしました。学校自体のきれいで図書館の地下は話してもいいので、友達とよく宿題をしていました

★授業内容・課題・試験

授業は Grammar, Reading, Writing, Listening&Speaking の 4 クラスでした、レベルの 5 段階ありはじめてのテストで決まりました。Grammar は章ごとにテストがあり 80%取らないとそのクラスが pass できないので、大変でした。Reading は毎回単語テストがあり、意味を調べて例文を自分で作らなくてはいけなく、時間がかかりました。自分でエッセイを

書いたり、毎週プレゼンがあったり、時間がかかる宿題が多かったです。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア

Marylhurst はクラブがなかったので、他の大学に行きテコンドーのサークルに参加しました。テコンドーは何も道具がいらず、週二のペースだったので通いやすかったです。また私はサービスマーケティングをとっていませんでしたので自分で PIA の方に聞いてボランティアを紹介してもらいました。週一で PUS という大学で日本語を勉強している学生のお手伝いをするボランティアでした。現地の同年代の学生と友達になるととてもいい機会でした。ボランティア中は日本語ですが授業が終わるとみんな英語なので、自分のためにもなりました。

⑥ 現地での住まいについて

私はホームステイでしたが、すべてが最高でした。学校へはバス 10 分ぐらいで、周りにはカフェ、郵便局、スーパー、ドラッグストア、飲食店、図書館が徒歩圏内でした。人通りも多く、きれいな街だったので散歩など最適でした。近くにバスのトランジットセンターがあったので、ダウンタウンにも別の大きなショッピングモールにも行くことができ立地条件は最高でした。私は英語が本当に話せなくてホストファミリーとのコミュニケーションを心配していたのですが、今までに何人もの留学生を受け入れている方だったので、慣れていて安心しました。仕事が忙しそうでしたが、ちゃんと手作りでごはんを作ってくれて料理上手のマザーでした。毎週一緒にどこか出かけるほどではなかったですが、アイスホッケーやアウトレットにいたり、私が好きなメキシコ料理のお店に行ったり、自分の時間もちゃんと持てたので本当によい距離感でした。毎週月曜日は happy Monday と決めて 2 人でアイス食べながら、恋愛映画を見ていました。部屋はウォークインクローゼットと自分専用のお風呂のあり、何も不満はなかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私はサービスマーケティングではなかったので、1 か月休みがありました。せっかくアメリカに来たのだからできる限り旅行しようと思い、ロサンゼルス、ハリウッド、サンタモニカ、ディズニーカリフォルニア、ラスベガス、グランドキャニオン、アリゾナ、カナダなど行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

やはり現地の同年代の友達ができただけです。放課後に一緒にごはん食べに行ったり、テスト終わりのパーティに呼んでもらえたり、留学生ではなく PSU の生徒のような生活を送

れたことはとてもよかったです。また、その子たちと 1 週間旅行したこともいい思い出です。車でグランドキャニオンに行ったりととても長い移動でしたが、車内でいろんなことを英語で話せるし、学べるし貴重な時間でした。旅最中に新年を迎えたので、花火を見たりとアメリカ流を体験できいい経験でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

現地について 2 週間たちだんだん生活に慣れたころマザーがけがで足を骨折していまい、車の運転や歩くこともできなくなってしまい急きょ強制引っ越しになってしまった時は、つらかったです。また一から関係を築かないといけないと思いが重かったです。実際は新しいマザーはとても優しくすぐに打ち解けました。一番苦労したのは自分の英語力の低さです。中高と英語が嫌いで成績も一番悪くまともに勉強していなかったため、自分の単語の少なさに驚きました。いろんな言い回しを覚えても単語が少ないためにうまく使えないことが多く歯がゆさを感じました。また英会話に通ったことがなく初めて外国人を目の前にして話すことになったので、恐怖感がはじめの方がありました。アジアの友達とは話せるのになぜか色と目の色が違うだけで緊張してしまいました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

バスの時間のルーズさです。毎朝 10 分ぐらいの遅延は普通のことで、遅延証明というものがないので、授業に遅れる時は困りました。後は韓国人のルームメイトが朝の夜のシャワーを浴びるので、洗面台を使う朝は大忙しでした。

Ⅲ.留学希望者へのアドバイス

① 日本から待っていて、特に役立ったもの

小さいかばんは買い物に行く時よく使いました。リュックだけだと学校に行くのはいいけど、買い物などには大きすぎると思います。一番は日本の薬だと思います。もともとよく風邪をひく方だったのでたくさん持っていて大丈夫でしたが、食べ物も変化で便秘になったり、気温の変化で風邪をひくので多めに待っていていいと思います。大抵のものは現地で買えますが薬はやはり日本のものの方がいいと思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

入学当時は CASE にも入れないくらいでしたが、帰国後は CASE の上級に 3 年次から移動できました。現地の英語がとても早く難しかったので、同女の先生の英語が簡単に思えるようにもなりました。リスニングとスピーキングはとても上がったと思います。英語以外にも自分自身少し自信が持てるようになりました。1 人でアメリカに行き半年間生活したことで、多少の失敗や問題に動じなくなったと思います。精神的な成長ができたことが大き

いです。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は全く英語に自信なく TOEIC が 400 点以下くらいでした。でも今は CASE 上級で授業が受けられるくらいまでに成長しました。自分の英語力に自信がなくて留学行くか迷っている人がいたら絶対行くべきだと思います。留学に行かなくて後悔はするけど、行って後悔することはないです。留学に行って英語が伸びたことはうれしいですが、それ以上にたくさんのことが身に付きました。行動とれば、必ず何かは自分のかえってくると強く思わせてくれる機会でした。勇気を持って参加したら友達ができ、やりたいことを伝えると思った以上のサポートをしてもらえたり、これらの経験が私に行動することの大切さを教えてくれました。日本にいた時よりも何をするにも勇気があるので、日本にかえてみると、案外なんでもトライしてみようと思えるようになります。すべては留学に行ったことから始まったと思います。

IV.将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

ゼミは国際理解コースで、模擬国連に参加するのでこれからももっと英語力を高めていこうと思います。まだ将来の夢は決まっていますが、英語を使って世界のいろんな人と仕事をしたいと思います。



現地の友達と 1 週間旅行に行った時の写真です。この旅のおかげでより英語を話す抵抗がなくなりました。



ダウンタウンにある他の大学の友達です。よく家に泊まりに行ったり、ごはんに行ったりして遊んでいました。

R. A.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生の時にボストンへ留学したことがきっかけで、大学へ進学した後、将来の選択肢を増やすためにも必ず留学しようと考えていました。

② 留学決定から出発までの準備期間

語学の面では授業で取り扱っている教材を中心に、単語の勉強をして、Web サイトで現地において使える日常会話表現等を覚えました。渡米に向けてビザの手続きや航空券の予約等、初めてのことばかりなので時間に余裕のあるうちに済ませるようにしました。ビザについてはとにかく書類が多いので早め早めの準備が必要だと思います。

③ 現地到着後

私は成田空港から直行便でポートランドまで行きました。乗り換えもなかったため一人でも特に苦も無く無事に到着することができました。到着後はホストがくるまで迎えに来てくれて、お昼をごちそうになった後、そのまま家へ向かいました。登校初日はクラス分けのテストを受けて、校内見学をしたり必要な書類に記入したりしました。

④ 語学研修期間

◆ スタッフ・施設・環境

先生方はとても親身になって指導してくれる、やさしい方々ばかりで、校内も自然たっぷりの美しいキャンパスでした。

◆ 授業内容・課題・試験

授業は Grammar, Listening, Speaking, Writing の 4 科目に分かれており、1 日に 2 科目ずつを週に 2 回受けました。私は特に Speaking の課題やプレゼンテーションの準備等にはうなされが、将来にも使えるスキルを身に着けることが出来たのでよかったです。

◆ サービスラーニング

冬休みが終わった後に約 1 か月間 2 つのプレイスメントでボランティアをしました。一つ目は”Store to Door”とい大型スーパーで食料品や生活用品を買い付けて大きなバンに乗せて、買い物に行くことが難しいペナルティーを持った方々に届ける仕事です。家に直接届けにいくのでアメリカ人の私生活が自分の目で見るすることができました。一緒に働いた人は本当に面白い方で、仕事のあとに図書館へ連れて行っていただいたり、コーヒーを一緒に飲んだり、アメリカの時事について教えてくれたりとても充実していました。二つ目のプレイスメントは”CHAP”といって子供たちにアートを通して癒しを与えるプロジェクトに

参加していました。工作教室の下ごしらえや、試作品等の作成をしました。30 体のぬいぐるみのモンスターをデザインして子供たちに作ってもらった時は先生も子供たちもすごく喜んでくれてとてもうれしかったです。周りのネイティブな速度に慣れたことにより、終わった後は格段に Speaking と Listening の能力が伸びたと思います。

⑤ クラブ活動・課外活動

クラブ活動はしていませんでしたが、学校側が主催してくれるアクティビティには積極的に参加しました。NBA を観戦しに行ったり、シアトルへ観光しに行ったり、楽しいイベントばかりでした。

⑥ 現地ででの住まいについて

私はホームステイで、マザーと 10 歳のホストブラザー、そして 2 匹の犬と一緒に過ごしました。家が丘の上にあり、バス停までは少し距離があったので学校やダウンタウンへ行くときにはマザーに車で送ってもらうか、歩いていました。マザーは日本食に興味があるらしく平日の夜にはよく手料理を振る舞ってくれて、毎回ご飯の時間が楽しみでした。ご飯のあとは必ず皆でカウチに腰かけて映画やドラマを観たりして、こういう何気ない毎日がとても楽しかったです。マザーはいつも携帯ゲームをしていてよいシーンを見逃すので、度々要約するようお願いされることもあり、要約力もアップしたかと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休みには自分達で手配などをしてフロリダのユニバーサルスタジオへ行きました。飛行機トラブルがあったため滞在日数が一日短くなってしまいましたが、十分楽しめました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと・最も思い出に残っていること

マザーと良く出かけることが多く、ショッピングモールや季節のイベント、ホームパーティ等様々な経験をさせてもらいました。ジェントルマンなホストブラザーも私を楽しませようといつも気を使ってくれていたようで（後でマザーに聞きました）毎日の何気ない日常も楽しかったです。一緒にゲームをして、クリアする度にふたりがお祭りのように喜んでくれるので、やりがいがありました。本当の家族のように接してくれた二人にはとても感謝しています。

② 留学中でつらかったこと・最も苦労したこと

最後の飛行機トラブルはとてもつらかったです。日本と違って少し大雑把なところもあるので、情報もあまり知らされず、不安で仕方ありませんでした。しかし、担当の PIA のスタッフの方の迅速な対応のおかげで無事に次の日の飛行機に乗ることができたので、良か

ったです。

III. 留学希望者にアドバイス

① 日本から持って行って役だったもの

ノートパソコン、観光ブック、化粧水、洗濯ネットは持って行って良かったです。ルーズリーフやノートは特にこだわらなければ現地で買った方が荷物にならず良いと思います。コンタクトの液等日本と同じようなものがアメリカのスーパーにも売っていたのであえて持つていく必要はないと思います。

② 語学の向上等・留学成果・留学前と変わったこと

以前に比べ、頭であまり考え込まなくても言いたい文章がスムーズにできるようになったと思います。ミスも過度に恐れることはなくなりました。何より listening が点数で大きくアップしました。

③ これから留学しようと思っている後輩へアドバイス

日本にいただけでは経験できないことももちろん沢山ありますし、留学することで自分を見つめ直せたり、多くの人々に出会えたり、貴重なことばかりです。苦勞することもあります。それを含めて留学だと思ひ、その分成長するチャンスも多くあると思ひます。もし、行くかどうか迷っている方がいるならば、ぜひ挑戦してみてください。





S. K.（日本語日本文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、高校のときに留学経験があり、大学でも海外へ行って英語を学び異文化に触れたい
と思いセメスター語学留学を目指しました。留学を考え始めたのは 1 回生の後期くらいか
らだったと思います。

② 留学決定から出発までの準備期間

ビザを申請するのにとても苦労しました。なぜなら全部一人で手配しなければならないか
らです。ちょうどテスト期間とかぶっていて時間がなくてどうしよう、という焦りがあり
ました。私は、一人でやるのは不安だったので母に手伝ってもらいながらなんとかビザ申
請することができました。

③ 現地到着後

空港に着いたら PIA のスタッフの人が迎えに来てくれました。車でホストファミリーの家
まで送ってくれました。オリエンテーションでは、クラス分けテストをしたりスタッフの
人が学校案内をしてくれました。

④ 語学研修期間

秋タームと冬ターム両方とも授業を取りました。授業は月～木曜で 1 日 2 コマでした。ど
の授業もわかりやすくいつでも質問ができる環境でした。秋タームのクラスはほとんど日
本人でしたが、冬タームは日本人は私しかいない授業もありとても少人数でした。テスト
は日本という中間、期末テストがあり、テスト期間はとても大変でした。一番苦手として
いたのはプレゼンです。プレゼンの経験がなかったし、当たり前ですが英語でプレゼンな
ので難しかったし緊張もしました。ですが、やればできる！ことはわかりました。課題も
ほぼ毎日ありました。でも徹夜しなければ終わらない量ではありませんでした。私は、学
校がおわったら図書館で課題をしたり、チュータリングの制度を大いに利用していました。

⑤ クラブ活動、課外活動、ボランティア活動

PIA のスタッフから高校の日本語クラスにボランティアとして行ってみない？と言われた
ので毎週金曜に日本語クラスに参加していました。日学なので日本語教育には非常に興味
がありました。生徒のみなさんが熱心に学ぶ姿勢に私も刺激を受け、そこで友達もできた
ので良い経験になりました。

⑥ 現地での住まいについて

私は出発前日にホストファミリー変更になり動揺していました。そして新しいホストファ

ミリーは 70 代後半のおばあちゃんでしたが、変更しなければならない状況になりました。本当に何が起きるかわかりません...変更してからはホストマザー、ホストファーザー、ホストシスターそして一緒に暮らしてはいなかったのですがホストブラザーがいました。もう一人、日本人のルームメイトがいました。日本人だから日本語を話していたのではないかと思うかもしれませんが私たちは一切話しませんでした。強い意志があったらできます。通学は 30 分かけて徒歩で行っていました。帰りはシャトルバスを利用したりしていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休みは一月あったので高校のときのホストファミリーを訪問しにフロリダに行ったり、カリフォルニアのディズニー、ロス、バンクーバーに行ったりもしました。冬タームがおわって帰国するまで少し時間があったので一人でシアトルにも行きました。私は一人旅をおすすめします！自分で決めたりするのは大変ですがその分楽しいこともいっぱいあります。宿泊先で出会った人と仲良くなることだってあります。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、思い出に残っていること

ホストファミリーは別荘を持っていてビーチも近くにあって今までに見たことのない絶景でした。一緒にハイキングをしたのも思い出です。私の 21 歳の誕生日に Bar に連れて行ってくれたのも思い出です。

② 留学中でつらかったこと

日本人が多かったのはいやでした。あと冬タームで私のレベルがバラバラだったために同じ先生が 3 クラスもあったことはつらかったです。いろんな先生の授業のやり方で英語を学bitかったです。

③ 文化・習慣の違いで驚いたこと

特になかったです。適応できていたと思います。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って役に立ったもの

ノートパソコン、USB、日本のお菓子など

② 語学力の向上、留学の成果、留学の前と後で変わったこと

英語力は伸びたと信じたいです。半年だけでは物足りないという気持ちがいっぱいです。留学を通して少しは自立したのかなと思います。自分で考えて行動する力が身についた気がします。

③ これから留学しようと思っている後輩へアドバイス

ぜひ、大学生のうちに留学経験してほしいと思います。留学することで視野も広がるし自分を見つめなおす機会にもなると思います。日本の大学とは全然違いますし、得られるものも多いはずです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

就活も控えているのでこれから真剣に向き合っていきたいと思います。留学経験を活かせるようがんばりたいです。また、TOEIC の点数も伸ばせるよう努力したいと思います。



ホストファーザーとハイキングして頂上からの景色です。



授業が最後のときに撮った Grammar のクラスです。このクラスが一番楽しかったです。

R. O.（日本語日本文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指したきっかけは、中学生の頃から英会話教室に通っていて、英語を話すことが好きだったのでいつか海外に行ってみたいと思っていたからです。高校の時は勉強よりも部活動ばかりしていたので、英語の成績はあまり良くなく、大学入学時に母に在学期間中に一度は海外留学を休学してでもするという約束をしていました。そして大学の勉強が始まり日本語教育にとっても興味を持ち、海外での日本語の位置付けや、実際の教育をみたいと思いセメスター語学留学を志望しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから、すぐはそこまで忙しくはなく、逆にゆっくりし過ぎていたぐらいでした。事前授業が 3 回あったのですが、はじめは 3 回もあるのか、と思っていましたが、3 回目の事前授業では 3 回しかなかった。と思ったほどです。ビザの申請は入力作業がなかなか面倒くさくてはかどりませんでしたが、実際にビザを取りに行く結構あっけなく終わったのでそこまで苦労した記憶はありません。

③ 現地到着後

現地に着いてからは、まず機内で仲良くなった韓国人の女性の方と荷物を受け取る場所を探し、拙いながらも自分の英語が頑張れば伝わることに喜びを感じつつも自分の英語力のなさに落ち込みました。そして飛行機が早く着いていたので、迎えの先生が来ていなくてたまたま同じ飛行機だった日本人の方が一緒に探してくれて会うことができました。その後ホームステイ先まで一緒に行ってステイ先の家族と会いました。私は着いたのが一番早かったので、ステイ先のマザーや子供達と遊んで過ごしました。時差ぼけはそこまでひどくなかったので後からきた同じプログラムのみんなとダウンタウンの探検をしたりしました。

④ 語学研修機関

PIA はメリルハースト大学の中にありますが、芸術系の大学なので私が想像していたような大学ではありませんでした。でも環境はとても良く先生もわからないことがあればとことん教えてくれ、授業も日本よりもはるかに少人数で行われ、日本のように居眠りをする暇もないような楽しい授業が多かったです。日々の課題は多いですが、アルバイトも他の用事も少ないので、勉強にあてる時間は必然的に多くなりできることが増えたように感じました。試験は自分の得意、不得意によって難しく感じる場所もありました。サービス

ラーニングでは、履歴書などの書き方や電話の受け答え、困った時の対応やアメリカの文化も学べ、自分一人で地元の人と関わることができたので、度胸と自信がついたかなと思います。そしてサービスラーニングを通して自分の将来についても考えるきっかけになりました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイでは通学距離が結構あったので、苦勞しました。私のステイ先は最寄のバスが1時間に1本敷がなく、休日は動いていなかったのもマザーに頼むか、タクシーのようなものに頼らないといけなかったのが大変でした。そして、ステイ先の子供やマザーともうまくいかず悩んだりもしましたが、先生方のサポートなどで最後にはとても仲良くなりました。ただ食卓をみんなで囲む習慣のない家族だったので、なかなかさみしい思いをしました。最後に学校の都合で2週間だけステイ先を移動しなければならなくて、移動した先の家族とうまくいなくて辛い思いをしたのは残念でした。アメリカは主張しないと聞いてもらえないので困ったことなどがある時は相談することや、おもいきって自分の意見を言うことも必要だと思いました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

休暇は友達とカナダのバンクーバーと一人で友達に会いにシアトルに行きました。ひたすら遊びほうけましたが、日本ではなかなかできない体験もできました。クリスマスにケンタッキーを買いに行くとしまっていたのが一番ショックでした。年越しはポートランドで友達とパーティをしました。知らない人もきたり、そこで仲良くなれたりしてたのしかったです。みんなでだしから年越し蕎麦を作ったのはいい思い出です。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中たのしかったことは友達のスーテイ先でしたパーティです。いろんな国の人で集まって、自分の国のカルチャーやみんなの疑問などを話したり、その国のゲームなどをみんなでしたりしました。そこで一番実践的に英語で伝えることを学べた気がします。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番辛かったことは、言いたいことがすべて吐き出せないことです。文化も違うのでダメだと思っていたことが誰も気にしていないことだったり、日本人的な遠回しな言い方が伝わらず喧嘩になったりもしたので一番は自分の英語力のたりなさや自信の無さが悔しかったです。あとはやはり人種の差別を感じた時です。アメリカ国内の旅行などに行くとアジア人だからと言う目で見られたり、騙されそうになったりしました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

家族で食卓を囲まないのにはとても驚きました。アメリカでは食が重要視されていないのか、椅子に座って食べなかったり、パソコンをしながら食べていたのには驚きました。他には他人への干渉のしなさです。私が夜シャワーを浴びようが電話していようがあまり気にしていなかったので、日本人とは違うなと感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンはもちろん持って行ったほうがいいと思います。自分の使い慣れているものが一番やりやすく学校のパソコンだと日本語で打てなかったりするので必要でした。あとは日本食よりも日本のお菓子などは良かったです。仲良く待った人にあげても喜ばれるし、日本が恋しくなった時にすぐ食べられるので良かったです。洗濯ネットや洗面用具は必要だと思います。あと、生理用品はやはり日本のほうが使い慣れていて、安心だと思いました。ほかのものは向こうでも買えるのでたくさん持って行くと帰りに困ります。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学で語学力はもちろん海外の方との関わり方や、将来の夢や自分のやりたいことや興味のあることが増えました。たった 6 か月ですが日本でいる 6 か月では知り会えない数のひととしりあえ、たくさんの経験ができたと思います。アメリカでは毎日が発見の連続で日本いかえって来てからもいままでは全く気づかなかったことに気づけたりしています。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を少しでもしたい！と思ったらするべきだと思います。それが短くても長くても絶対に行かないで後々後悔するよりも得られるものがあると思います。語学力が上がるとか上がらないとかではなく、そこで見たものや出会った人は一生の思い出になります。それに、学生の内にしか経験できないことがたくさんあるので、自由がきく学生のうちに留学はしておいた方がいいと思いました。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後は食を通して世界とかかわれるような仕事をしたいです。

M. U.（人間生活学科・1 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指したきっかけは、留学前にしていたアルバイト先で自分の英語がどれだけネイティブに通用しないかを感じたことです。同志社女子大学に、生活科学部の私が 1 年生の間に行ける留学プログラムがあると知り、応募することを決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

ビザの手続きは YouTube の説明を見ながら必死でしました。することは多いけど、きっちりすればなんとかなると思います。現地到着後は、学校の方に会えば、そこからは案内してくださるので心配はなかったです。

④ 語学研修機関

留学先の授業は、先生の授業に対する考えだったり、私たちの授業の受け方だったり、授業の勉強内容以外にも興味深い部分はたくさんありました。宿題は毎日出るし、テストは 1 タームに 2 回あるし、もちろん難しいものもありますが、質問には丁寧に答えてくれる優しい先生がたくさんいるし、質問しやすい環境も整っていたので、とても楽しかったです。宿題もそんなに多くないので毎日やっていれば問題なかったです。サービ斯拉ーニングでは、現地の生活により入り込むので、アメリカに到着して 3 か月以上しているのに、また文化の違いを改めて感じました。サービ斯拉ーニングは私にとって気付かないうちにリスニング力を伸ばしていたんだなあ、と後になって気づきました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先については、大変なこともあると感じました。私のステイ先ははじめ、色々な違反があったようでとても辛かったのですが、同女の先生、PIA の方に相談して、ステイ先をすぐに変えていただけたことになりました。そこからはとても楽しくて優しいファミリーだったので、留学生活も一気に充実したものになったと思いました。ルームメイトも日本人だったものの、私よりずっと英語の出来る女の子で、家では日本語禁止というルールだったので、英語も沢山教えてくれて為になりました。ファミリーはいつも私の英語力を考えてくれていて、すごく楽しく英語を学ばせてくれました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に楽しかったこと、嬉しかったことは、現地に私の居場所が出来ていったことです。

優しいファミリーにも恵まれ、仲のいい友達にも出会い、色んなところで、愛実いつでもおいでね、愛実おかえり、って言ってもらえるのはとても嬉しく感じました。今でも連絡をとったりしてくれる大好きな人たちが日本人以外で出来たのは、私に沢山の影響を与え、沢山の成長させてくれていると感じています。また、そんな人たちに会えた事で、沢山の日本ではできないであろう体験も出来ました。また、やはり英語を学びに来ているので、英語力の伸びを感じた時も楽しいと思える瞬間でした。道に迷ったりトラブルに出会ったり、今までなら対処出来なかったであろうことが「そんなことその辺の人たちに聞いたら教えてくれる」と思えるようになったのは、日本でどれだけ勉強しても得られない感覚だと思ったので、来て良かったと心底感じました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

やはり最初のホストファミリーとの問題です。後から聞くと、ファミリー側に問題があっても、当時は精一杯で何が正しいかもわからず、それに耐えられない自分が弱いのだと思っていたときは本当に辛かったです。でも相談すれば優しく応えてくれるし、今は早めに相談出来て良かったと思っています。またサービスマン先にも苦勞しました。土木現場でヘルメットとゴーグルをし、ネジを打ったりハシゴに登ったりするのは、真冬の寒い時期にしんどいとも思ったし、5時起きだったので、面倒に感じたこともありましたが、でも自分が建築物の内部が見られることに興味を持ち決めたことだったので、最後までついていくのに必死でした。終わってみると、皆いい人だったし、得た部分が辛い部分より多かったと思うので本当に価値あるものになったと思い、良かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持って行って役に立ったものは、スマートフォンとパソコンと基礎化粧品とコロコロと常備薬と電子辞書とポケットティッシュです。スマートフォンはグーグルマップで街をあるいたり、フェイスブックでファミリーと連絡したりするのに必須でした。Wi-Fiもスタバとかに行くと使えるので、苦勞はしませんでした。パソコンは授業や宿題で使うので必要だと思います。学校にもありますが課題をするには自分のものがないと本当に大変だと思います。基礎化粧品は、私は肌が敏感なので、使い慣れたものを使いたかったので使っていました。コロコロは掃除したい時にちゃちゃっとできるし、アメリカで売っているのは見たことなかったので、便利に思いました。常備薬は、思っているより風邪を皆ひくので必須です。電子辞書は授業で使うのに便利でした。英英辞書とかも使い出すので、色々入っているものがあると思います。ポケットティッシュは、現地でも買えますが、割

高なので、花粉症の方には持っていくことをおすすめします。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

また、留学前とは英語の捉え方が変わったと思います。留学前は、英語は勉強で、科目の一つであると感じていたのですが、アメリカで過ごす時間が長くなるほどに、英語は気持ちや物事を伝える言語なんだな、と感じました。当たり前のことですが日本にいてはなかなか気付けなかったし、日本にいる状態でそれを理解しろというのは難しかったと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これから留学されるみなさんには、私は、沢山の経験をすることを目標にして欲しいと思います。たった半年でネイティブと全く同じように話すのはなかなか難しいことかもしれませんが、しかしそうならばそうなりに努力も出来るし何か見つけることは出来ると思います。半年でどれだけ濃く価値のあるものを得るか、それは出来た経験の多さに関わってくると思います。悔いのないように楽しんでほしいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私の将来の夢はインテリアコーディネーターとして活躍する事です。アメリカではボランティア先でアメリカならではの木造建築の中身を見ることもでき、貴重な経験も出来たので、そこで大きくなった興味をこれからも持っていきたいです。また英語としての目標は、日本にいるネイティブの方の手助けをすることです。今は日本に来ている留学生に日本語を教える活動をしています。もともとアルバイト先で困っているインバウンドのお客様の力になれなかったことが歯痒いと感じていたので、もうそのようなことに会わないようにこれからも英語の勉強を続けていきたいと思います。そして何よりアメリカでしてきた半年分の経験は、日本では出来ない貴重なものだと思うので、これからの生活、生き方に活かしていきたいです。言葉が伝わらない怖さ、なにがどこにあるかも全くわからない辛さ、言葉が合わない人との人間関係の難しさ、自分の意思で決めたこととの向き合い方、迷った時の対処法、人に相談し相談されるからこそ一人じゃないからこそ出来る物事、そしてなにより自分の周りにいてくれる人のありがたさ、その感じられたもの全てを無駄にしない生き方をしたいです。



これは私が帰国する直前にホストファミリーと撮った写真です。ファザー、マザー、マザーのお母さん、中学生のブラザー、ルームメイトです。皆優しくてお家もきれいでたのしかったです。



これは学校の廊下です。とっても自然豊かで綺麗で素敵な学校でした。ダウンタウンにもバス一本で行ける、立地もいい場所にありました。

S. N.（人間生活学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私には小さいころから将来キャビンアテンダントになるという夢があり、そのためには英語を習得する必要があると考え、今回の留学を決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってから出発まで、正直勉強という勉強はしていませんでした。ただ家でずっと洋画を観ていたことで耳を少し鳴らすことができていたように思います。ビザの申請は代理を通さず自分で手続きしましたが、特に難しいこともなくスムーズに行うことが出来ました。

③ 現地到着後

空港に着くと学校のスタッフが看板を持って迎えに来てくれており、とくに迷うこともなくそのままホストファミリーの家に送ってくれました。私は学校が始まる 5 日前には現地に到着していたので家の周りやダウンタウンを探索したりしていましたが、その間ひどいホームシックになってしまったので、学校が始まるギリギリに着いていても良かったかなとも思いました。

④ 語学研修期間

私たちはポートランドのダウンタウンからバスで 40 分ほど離れた閑静な場所にあるメルルハースト大学の敷地内にある PIA という英語研修機関に通っていました。2015 年度秋は非常に運が悪く、生徒の約 9 割を日本人が占めており校内では毎日日本語が飛び交っていたので、英語を勉強する、他国の友達を作るなどといった面ではあまりいい環境ではありませんでした。スタッフはみんなとても親切で親身になって様々な話を聞いてくれたり、アメリカを楽しむ様々な情報、チャンスを与えてくれました。キャンパスはとても広く自然を感じられる場所でしたが、メルルハーストの大学生のほとんどが夜間に授業を受けていたので、私たちが学校にいる時間に校内で現地学生に出会う機会はほとんどありませんでした。クラスは最初に受けるテストの出来によって振り分けられるので、授業が特に難しいと感じたことはありませんでした。留学後半はサービスマンシップを選択し、こども向けのミュージアムと託児所でボランティアを行いました。ここではそれまでの学校と違って現地の人と関わることができたのでとても有意義だったと思います。

⑤ 現地での住まいについて

私のホームステイ先は学校からバスで 15 分ほど南に下ったところにあったのですが、家が

バス停から徒歩で 30 分かかるところにあり、毎日 1 時間歩かなくてはどこにも行けないことが辛かったです。ただホストファミリーはとても優しい老夫婦で、かなり自由に生活させてもらっていました。ホストマザーとファザー以外に台湾人のルームメイトが居ましたが、彼女はすでに 7 年間アメリカに滞在しており英語も堪能だったため毎晩遅くまで話したり勉強を教えてもらったり、私にとってとても大きな存在でした。一緒に出掛けたり料理をしたり彼女がいたからこそ英語も上達し、たくさんの思い出が出来たと思っています。

⑥ 長期休暇の過ごし方

Fall term と winter term の間の休みには同女の友達とカナダのバンクーバーに旅行に行きました。日本に比べて交通費も宿泊費もとても安かったので、現地でもたくさん娯楽を楽しめました。当時まだ 20 歳だったのでアメリカでは公的に飲酒ができなかったのですが、カナダでは外でお酒を楽しむことができとても楽しかったです。全課程終了後には LA と NY に合計 9 日間ほど旅行に行きました。ハプニングはありながらもポートランドとは全く違ったアメリカを感じることができとても素晴らしい思い出になりました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

学校が日本人だけで、また付属大学が夜間メインだったため現地学生や他国からの留学生と仲良くなれる機会がとても見つけづらい環境だったのですが、その中でも私たちは恵まれたことに友達のステイ先からたくさんの日本人以外の友人を作ることができ、毎週彼らと頻繁に遊んでいました。お互いの国のことを教えあったり一緒に勉強したり、かけがえのない思い出になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中に特につらいと感じた事はあまりありませんでした。ただ到着してしばらくはホームシックから抜け出せず、日本にいる大切な人たちに会えない寂しさから毎晩泣いていました。でもしばらくして現地にもたくさんの友人が出来てくると、アメリカでの生活を楽しいと思えるようになっていました。

③ 文化。習慣の違いで驚いたこと

一番ギャップを感じたのは食文化です。当たり前ですが食べるものも量も全く違うので慣れるのに時間がかかりました。一番驚いたのは賞味期限に関してで、私のホームステイ先にはほぼ賞味期限が切れてないものはないといっても過言ではないほどほとんどが BEST BY と書かれた期限を過ぎているものばかりでした。はじめはそれらを食べるのが怖く自分で食材を購入したりしていたのですが、帰るころには全く気にせず口にしていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは自分のものを持っていきましたが、学校からの課題をやるだけでなく、家で友達と Skype をしたり動画を観たりと私にとっては欠かせないものだったので持参することをおすすめします。また持って行ってよかったと思ったのは使い捨てカイロです。冬のポートランドは思ったより寒かったので重宝しました。それ以外もいろんなものを持っていきましたがほとんど現地で調達できました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学を終えて語学力は確実に上がりました。英語で話すことへの躊躇は全くなり、自信をもって会話が出来るまでになりました。ペラペラかといわれるとそうではないですが、英語でちゃんとコミュニケーションを取れることが何よりの収穫だと思っています。わたしのアルバイト先のお客様の約 7 割が外国人なのですが、英語で接客をした時にお褒めの言葉を頂けることがとても嬉しいです。さらにそこから会話が弾みいろんな国籍の方と仲良くなれたときに留学に行ってきたと強く感じます。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は社会人になってからでは時間的になかなか難しいものだと思います。ホームではなくアウェイで生活することは簡単なことではないですが、語学力はもちろん、様々なことが学べる絶好のチャンスだと思います。私が知る限りでは留学をして後悔したという人はひとりもいません。出来るうちに出来ること、やりたいことをやるべきだと私は思うので、迷っているなら是非行ってみてはと思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

前途の通り、私の将来の夢はキャビンアテンダントになることです。その夢をかなえるために今できることをコツコツとしているつもりです。英語に関してもまだまだのばしていきたいと思っているので、この留学を無駄にせずもっともっと勉強しようと思っています。



2016 年を迎える NEW YEAR PARTY

このあと総勢 40 人ほどになりわいわいみんなで新年をお祝いしました。